

二訂版

中学実力練成

α スタンダード

国語 2
年

論説文の構成・要旨や古文の知識等の問題集
中2国語 | 中学実力練成 α スタンダード

4 構成・要旨

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人間



15

10

5

- 例題
 - 基本問題
 - 練習問題
- 論説文 論説文 論説文

要点のまとめ

1 構成をしらせる

ポイント① 論の流れをとらえる。

- ① 意味段落をとらえる。

↓ 話題をもとに段落ごとの要点をおさえ、各形式段落をさらに大きなまとまり(∥意味段落)としてとらえる。

- ② 接続語に着目する。

↓ 話題が変わっている段落、根拠を述べている段落、要約している段落などがわかる。

ポイント② 文章の構成の型をとらえる。

① 頭括型^{とうかっ}：最初に結論を述べる形式。そのあとに、根拠や具体例など、結論を支える事柄を述べる。

② 尾括型：最後に結論をまとめる形式。それまでに述べてきた事柄が、結論を導く根拠となる。

③ 双括型：最初と最後に結論を述べる形式。

例題 3では、「空間」「時間」について述べている意味段落を考える。

1 指示語 — 線①「この特性」とは、どのような特性ですか。「……という特性。」に続くように、文章中から三十二字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

、

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

という特性。

2 内容理解 — 線②「時間についても同様である。」とありますが、何と「同様」なのでですか。

適切ではないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現実亲身を置いている視点からしか知覚できないこと。
- イ 自分の想像的な身体を自由に移行させられること。
- ウ 無限に広がっているものとして観念されること。
- エ 「壁」の向こう側についての問いを誘発すること。

3 構成 この文章を三つのまとまりに分けるとすると、どこで分けられますか。二つ目と三つ目のまとまりの初めの段落番号を答えなさい。

二つ目

| |
|--|
| |
|--|

三つ目

| |
|--|
| |
|--|

4 要旨 この文章の要旨をまとめた次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から三字で抜き出さなさい。

人間の意識は、空間的にも時間的にも、□の観念をもつようになっていく。

| |
|--|
| |
| |
| |

2 要旨をとらえる

要旨とは、その文章を通して筆者が述べようとしていることのものである。

ポイント① 結論をとらえる。

① 意味段落ごとに内容をとらえる。
↓それぞれの意味段落の内容をつかむ。

② 意味段落にタイトルをつける。
↓①でとらえた意味段落の内容から、

「話題の提示」「具体例①」「具体例②」「筆者の意見」などとタイトルをつけていく。

③ 結論が書かれた段落をとらえる。
↓②でつけたタイトルをもとに、筆者

の結論をおさえる。結論の書かれた段落は、文章の初めか終わりにあることが多い。

ポイント② 筆者の考えや意見をつかみ、要旨をまとめる。
結論が書かれた段落の筆者の考えや意見を中心にとらえる。必要に応じて、その他の段落の内容も補足する。

例題 4では、筆者の結論が書かれている

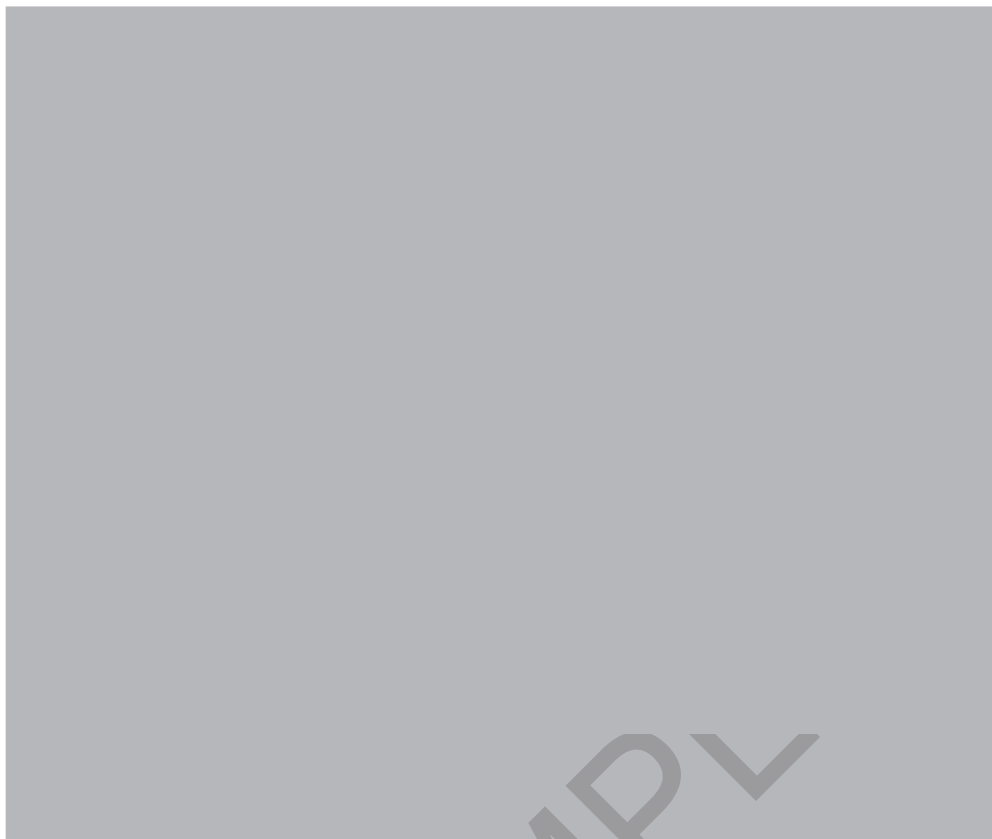
①段落に着目して読み取る。

②段落以降は、「①段落に書かれている「空間的な意味」「時間的な意味」について、それぞれ詳しく説明したものである。

基本問題

▼ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

科学

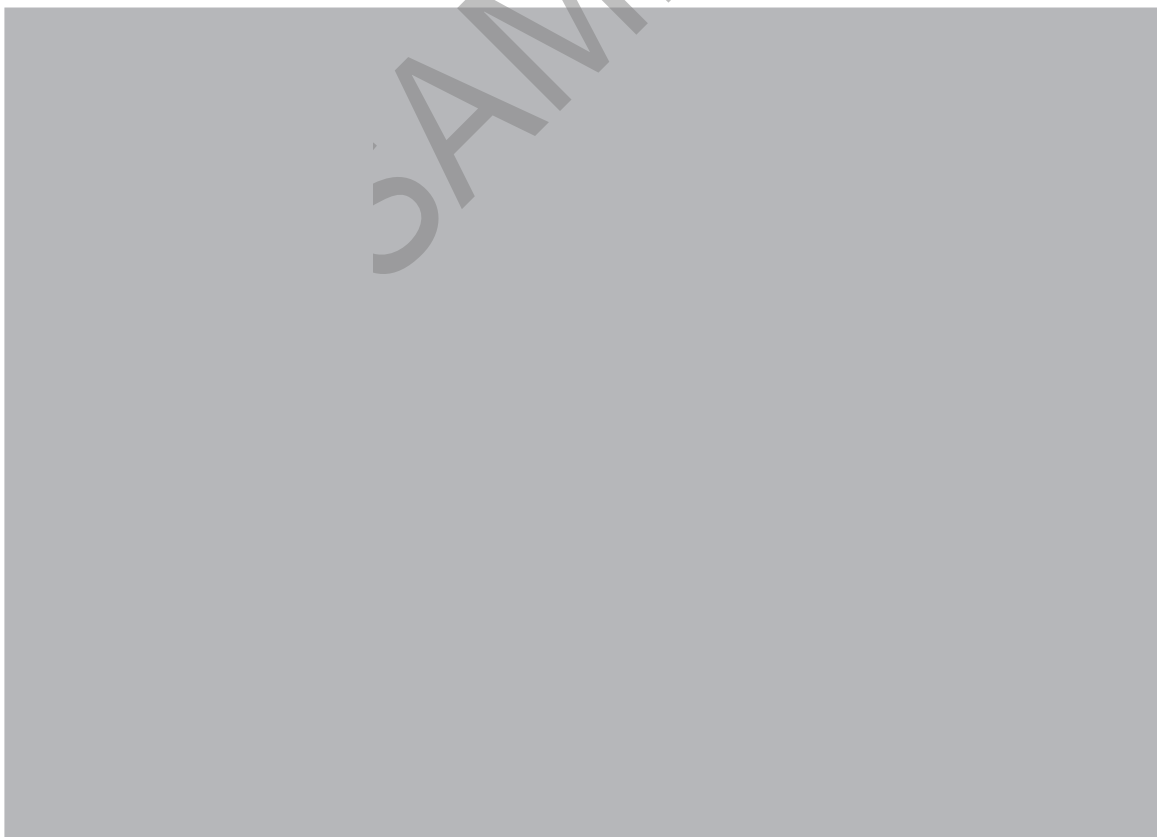


20

15

10

5



45

40

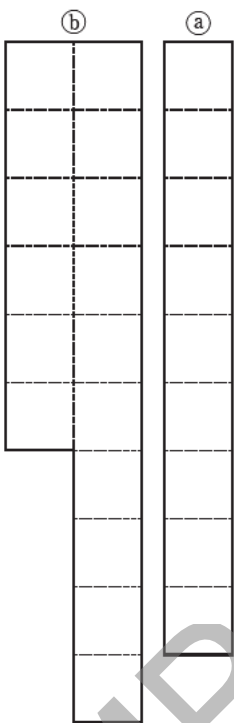
35

30

25

(1) 理由▼ — 線①「『よいといわれているものは信用しないこと』と答えることにしている」のは、なぜですか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から指定字数で抜き出さないさい。

メリットは、たとえ一過性のものであっても④〔九字〕ことが多く、逆にデメリットは⑤〔十六字〕ことが多いから。



(2) 内容理解▼ — 線②「科学・技術に関しても同じことである。」とは、どういうことですか。適切ではないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

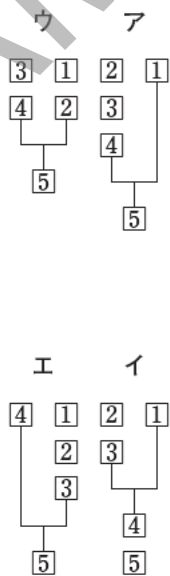
- ア 筆者にとって知らないことの方が多く、答えるのが難しいこと。
- イ ふつうの人々にとって、よいのか悪いのかよくわからないこと。
- ウ よいといわれるものを簡単に信じ込んでしまう風潮があること。
- エ 「よいといわれるものは信用しない」という態度が重要なこと。

| |
|--|
| |
|--|

(3) 内容理解▼ — 線③「なんとなくおぞましいと思う」感覚は、どういふものだと述べられていますか。文章中から七字ずつで、二つ抜き出さないさい。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

(4) 構成▼ この文章を三つのまとまりに分けるとどうなりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。



(5) 筆者の考え▼ この文章で筆者が主張しようとしていることを次のようにまとめました。□に当てはまる言葉を四十字以内で書きなさい。

現代においては、科学者だけではなくふつうの人も、科学・技術に対して□ことが大切だ。

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

練習問題

▼ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

生き方



20

15

10

5



45

40

35

30

25

(1) —線①「ついつい楽なものを選んでしまう」とありますが、それはどのような背景がありますか。「……という背景。」に続くように文章中から十六字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

という背景。

(2) —線②「その気持ち」とは、どのような気持ちですか。文章中の言葉を使って、三十字以内で書きなさい。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

(3) —線③「どうもぴんと来るものがない」とありますが、この理由を筆者はどのように考えていますか。次の文の□①・②に当てはまる言葉を、文章から指定字数で抜き出しなさい。

□①(七字)ものには面白いものがない、すぐに飽きてしまうとわかって、

□②(七字)をかけるから。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

(4) —線④「道以外も歩けることを、すっかり忘れてしまう」とありますが、この内容をわかりやすく説明したものとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

ア 用意された楽しみが多すぎると、既成のものではない楽しみを自分で見つけようとしなくなってしまう。

イ 楽しいことが周りにあふれていると、一つの楽しみにのめり込むことができなくなってしまう。

ウ 楽しさが、利益を得ようとする大勢の人たちに作り出されているものであるという現実を見なくなってしまう。

エ 身の回りにたくさん用意されている楽しみには、しょせん小粒なものしかないことに気づかなくなってしまう。

(5) この文章で筆者が主張していることをまとめた次の文の□①に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。

本当の「楽しさ」は、□①であるということ。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

(6) この文章を内容のうえから大きく三つのまとまりに分けた場合、二つ目のまとまりはどこからどこまでですか。段落番号を答えなさい。

| | | |
|--|------|------|
| | 段落から | 段落まで |
|--|------|------|

20

古文の知識(1)

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高名かうきょうの木登りといひしをのこ、人をおきて、高き木に登せて梢えまを切らせしに、いと危あやく見えしほどは言ふ事もなくて、おるのりるときに軒長のきながばかりになりて、あやまちすな。心しておりよと言葉をかけ侍はべりしを、「かばかりになりては、飛びおるのりともおりなん。如何いかにかく言ふぞ。」と申し侍りしかば、「その事に候まをふ。目くるめき、枝危えだあやきほどは、おのれが恐れれば申さず。あやまちは、やすき所になりて、必ず仕つかる事に候まをふ。」といふ。
 ① あやしき下かみ腐くさなれども、聖人の戒いましめめになかなへり。鞆たもとも、難かたき所ところを蹴けい出して後のち、安やすく思おもへば、必ず落おちつと侍まをるやらん。

〈兼好法師「徒然草」より〉

【現代語訳】

有名な木登りと言われた男が、人を指図して、高い木に登らせて梢を切らせたときに、とても危なそうに見えた間は注意することもなくて、下るときに軒の高さほどになって、けがをするな。気をつけて下りなさいと言葉をかけたのを、(不思議に思い)「これほど(の高さ)になっては、飛び下りても下りられるだろう。なぜこのように言うのか。」と申しましたところ、「そのことでございませぬ。目がくらみ、枝が危うい間は、自分が恐れていますので、(何も)申しません。けがは、安全なところになって、必ずいたすことでございます。」と言う。

□ 下人であるが、聖人の戒めの言葉にぴったり合っている。鞆も、難しいところを蹴りあげた後、安心だと思つと、必ず落ちると言われるようです。

要点のまとめ

1 歴史的仮名遣いに慣れる

ポイント 歴史的仮名遣いの原則を理解する。

◆ 現代では使わない仮名の使い方をするもの

あ↓い 例あゐる↓いゐる ゑ↓え 例こゑ↓こゑ

を↓お 例をどり↓おどり (踊り)

◆ 現代と異なる字を使うもの

ぢ↓じ 例ぢぢ↓ぢぢ づ↓ず 例みづ↓みず

◆ 現代の発音とは異なる字を使うもの

・ 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」↓「わ・い・う・え・お」

例あはれ↓あわれ 思ひ↓思い 言ふ↓言う

いへ↓いえ こほり↓こおり

・ くわ(ぐわ)↓「か(が)」

例くわし↓かし (菓子) にぐわつ↓にがつ

・ む↓「ん」

例行かむ↓行かん

・ 「au・iu・eu」↓「o・yu・yo」

例やうす (yasu) ↓やうす (yosu)

あやしう (ayasu) ↓あやしう (ayasyu)

つうど (tendo) ↓ちやうど (tyodo) (調度)

例題 1では、歴史的仮名遣いの原則に当てはめながら、

現代仮名遣いに直していへ。

(注) 下臈_レ人に使われる、身分の低い者。下人。
 聖人_ニ知識と人格に優れ、人々の模範となる人物。 鞠_ニここでは蹴鞠のこと。
 深める ■ 「蹴鞠」は、貴族男子の屋外の遊び。革でできた鞠を下に落とさないように
 何人かて蹴り合う。蹴る姿や蹴った鞠の軌跡の美しさも競われた。

1 歴史的仮名遣い▼ ~~~線a・bを現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

(a) () (b) ()

2 主語▼ ——線a①の主語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 有名な木登りと言われた男 イ 木に登っている人
 ウ 筆者
- ④ ① ③

3 会話文▼ 古文中から、あと一か所「」をつけることができる部分を抜き出しなさい。

い。

4 古語の意味▼ ——線①「あやしき」とありますが、この意味として適切なものを次

- から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 立派な イ かしい
 ウ 身分が低い エ 個性的な
-

5 内容理解▼ ——線②「聖人の戒め」と、木登りの言葉の共通点についてまとめた次

の文の に当てはまる言葉を、古文中から指定字数で抜き出しなさい。
 失敗は「A(二字) 」と「B(三字) 」と、
 失敗は「A(二字) 」と「B(三字) 」と、
 失敗は「A(二字) 」と「B(三字) 」と、
 失敗は「A(二字) 」と「B(三字) 」と、

| | |
|---|---|
| A | B |
| | |
| | |
| | |

2 古文の言葉を理解する

ポイント① 現代にはない言葉(古文特有語)に注意する。
 ・いと_ニとても。たいそう。
 ・げに_ニ本当に。なるほど。
 ・いみじ_ニはなほだしい。

ポイント② 現代とは意味の異なる言葉(古今異義語)に注意する。
 ・うつくし_ニかわいらしい。
 ・をかし_ニ趣がある。風情ふうせいがある。
 ・ありがたし_ニめつたにない。珍しい。

例題 4では、「あやしき」の古文と現代の意味の違いに注意する。

3 古文を読む

ポイント① 助詞「は」「が」の省略や、主語を示す助詞「の」に注意し、動作の主体(主語)をとらえる。
 例 風吹きけり。↓風が吹いた。

例 雁かりなどの連ねたる↓雁などが連なっている

例題 2では、助詞「は」「が」の省略などに注意し、それぞれの動作の主体をとらえる。

ポイント② 「言はく」「言ふやう」や、引用を示す助詞「と」に注意し、会話文の初めと終わりをとらえる。

例 花見むと…… ↓「花を見よう」と……

例題 3では、引用を示す「と」「に着目し、会話文の終わりをとらえる。

基本問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

博雅三位（注）の家に、盗人（ア）入りたりけり。三品（イ）、板敷（イ）のしたに逃げかくれにけり。盗人（ア）帰り、さて後、はひ出でて家中（イ）を見るに、のこりたる物なく、みなとりてけり。ひちりき一つを置物（イ）厨子（イ）にのこしたりけるを、三位とりてふかれたりけるを、出でてさりぬる盗人（ア）、はるかにこれを聞いて、感情おさへがたくして、帰りきたりて言ふやう、只今の御ひちりきの音をうけたまはるに、あはれにたふとく候ひて、悪心（イ）みなあらたまりぬ。とる所の物どもことごとくに返したてまつるべしと言ひて、みな置きて出でにけり。むかしの盗人は、またかく優なる心もありけり。〔古今著聞集〕より〕

（注） 博雅三位・三品＝平安時代の貴族、源博雅のこと。
 ひちりき＝楽器、竹笛の一種。 置物厨子＝とびらつきの物入れ。
 出でてさりぬる＝出で行ってしまった。

現代語訳

博雅三位の家に、盗人が入ったことがあった。三位は、その時板敷きの下に逃げて隠れていた。盗人が帰って、その後、床下からは出て家の中を見ると、残っているものは何もなく、みんな盗んでいってしまった。ひちりき一つだけをとびらつきの物入れに残してあったのを、三位が手にとってお吹きになると、出で行ってしまった盗人が、遠くでこの音を聞いて、感情をおさえられなくなつて、（三位の家まで）帰ってきて言うには、ただ今のひちりきの音をお聞きしているうちに、 尊く感じ、（自分の）悪い心がきれいになくなりました。盗んだ物は全てお返しいたしますと言って、みんな置いて出で行ってしまった。昔の盗人は、またこのように優雅な心も持っていたということだ。

深める ■ 「古今著聞集」には、源博雅が生まれるときに、天から音楽が聞こえたという話も収録されている。「古今著聞集」が成立した鎌倉時代には、博雅は音楽の天才として伝説的な存在になっていたと考えられる。

(1) 歴史的仮名遣い ▼ 線①・線②・線③を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

(a) () (b) ()

(2) 主語 ▼ 線①②の主語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 博雅三位 イ 盗人

(a) (イ) (イ) (エ)

(3) 会話文 ▼ 線①「只今の」とありますが、ここから始まる「盗人」の言葉はどこまでですか。終わりの五字を古文中から抜き出しなさい。

(4) 古語の意味 ▼ 線②「あはれに」とありますが、この意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア かわいそうと イ 不思議と
 ウ うれしいと エ しみじみと

(5) 文章の把握 ▼ 線③「むかしの盗人」とありますが、これについてまとめた次の文のに当てはまる言葉を、古文中から指定字数で抜き出しなさい。

むかしの盗人には、盗みに入っても、帰りに美しい (四字)の音聞いて感動し、盗品をすべて返しにくるような (四字)もあったものだ。

(a)

 (b)

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある河のほとりに、蟻^{あり}あそぶ事ありけり。にはかに水かさまきりきて、かの蟻をさそひ流る。浮きぬ沈みぬする所に、鳩^{はと}こずあよりこれを見て、「あはれなるありさまかな」と、こずあをちと食ひ切つて河の中におとしければ、蟻^{あり}これに乗つて渚^{なぎさ}にありぬ。かかりける所に、ある人、竿^まのさきにとりもちを付けて、かの鳩をささんとす。蟻^{あり}心に思ふやう、ただ今の恩を送らふものと思ひ、かの人の足にしつかと食ひつきければ、おびへあがつて、竿をかしこに投げ捨てけり。そのものの色や知る。しかるに、鳩これをさとりて、いづくともなく飛び去りぬ。〔伊曾保物語〕より
(注) 色＝事情。

現代語訳

ある川のとりにて、蟻が遊んでいることがあった。急に水量が増えてきて、その蟻を連れ流した。浮いたり沈んだりしていると、鳩が木の枝からこの様子を見て、「気の毒な様子だなあ」と、枝をちよつと食いちぎつて川の中に落としたので、蟻はこれに乗って岸に上がった。こうしていたところに、ある人が、竿の先にとりもちをつけて、その鳩を捕らえようとする。蟻が心の中で思うには、「今の(鳩に助けられた)恩を返したいなあ」と思い、その人の足にしつかりと食いついたので、(その人は)おびえきつて、竿をそこに投げ捨ててしまった。その人は事情がわかっただろうか(、いや、わかりはしない)。けれども、鳩のほうはこのいきさつを理解して、どこへともなく飛び去ってしまった。

深める

「伊曾保物語」は、古代ギリシャの説話集「イソップ物語」を、十六世紀後半に来日したキリスト教の宣教師がポルトガル語から日本語に翻訳した本。

(1) 歴史的仮名遣い 〰〰〰線 a・b を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

(2) 主語 〰〰〰線 a・b の主語を、それぞれ文章中から抜き出しなさい。

a ()
b ()

(3) 内容理解 〰〰〰線 ①「浮きぬ沈みぬする」とありますが、この意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 浮かずに沈んでしまった イ 浮いたり沈んだりしている
ウ 浮いていたがすぐ沈んだ エ 浮いたまま沈まない

(4) 内容理解 〰〰〰線 ②「これ」が指し示すものは何ですか。現代語で書きなさい。

()

(5) 会話文 〰〰〰線 ③「心に」とありますが、蟻が心で思ったことが書かれている部分を、文章中から十二字で抜き出しなさい。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

(6) 文章の把握 〰〰〰この文章を通して筆者が述べようとしていることとして正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 恩を与えたら、そのお礼をしてもらおうと期待すべきだ。
- イ 恩を受けたら、恩返ししたいと思うのは自然なことだ。
- ウ 恩を与えても、相手にわかるようにしないと無駄である。
- エ 恩を受けても、気にしないでそのまま立ち去るほうがよい。

| |
|--|
| |
|--|

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔千葉〕

むかし夏の事なるに、梢すゑの風の涼すずしき所にせみありて、何心もなく吟ぎんじて待まちりしを、かまきり①これを見つけて、かのせみをとらんとて、ひぢをい
鳴いて
 かりました。

からし、口わきをうごかして、ねらひよる所に、すずめまた、かまきりを
 とらんとて、枝をつたひ羽をつくろふ。かかりしところに、あさし来りて、
整える

すずめをさきんとして、さしぎををよこたへ、ねらひより、足もとの沼に
 5

ふみこみて、泥どろまぶれになりたり。されば、あさしはすずめを見て沼をし
捕ましよう

らず、すずめはかまきりを見て A をしらず、かまきりはせみをねらひ
だから

てうしろに B のある事をしらずと、いへり。万事これにて分別すべし。

② 前なる欲にうしろなるわざはひをわすれ、心にまかせてわたくしをかまひ。
*かんにん

これを思ひめぐらし、のちのわざはひをかへりみて、しばらく堪忍をおこ
自分のことばかりを考へる

せば、欲の火は消ゆるものなり。
 〔「堪忍記」より〕

(注) あさし＝鷹たか(狩りに使う鳥)のえきになる小鳥を捕らえる人。

さしぎを＝あさしが小鳥を捕らえるときに用いる竿。

堪忍＝我慢する気持ち。

深める ■ 「堪忍記」は、江戸時代前期(一六五九年)の仮名草子。さ
 まざまなエピソードを集め、「堪忍」の大切さを説いている。

(1) 〰〰〰線「ねらひよる」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きな
 さい。

(2) 線①「これ」が指し示すものを、文章中から二字で抜き出しな
 い。

(3) A・Bに当てはまる言葉を、文章中からそれぞれ三字で抜き出
 しなさい。

| | |
|---|---|
| A | B |
| | |
| | |
| | |

(4) 線②「前なる欲にうしろなるわざはひをわすれ」とありますが、
 あさしについてはどのようなことですか。「……こと。」に続くように書
 きなさい。

(5) この文章を通して筆者が述べようとしていることとして正しいものを
 次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目先の欲に目がくらんだ時は、よく考えてその欲をおさえ、自分を
 見失わないようにするべきである。
- イ 自分の周りの生き物を大切にし、分別のある生活をするこで、思
 わぬ災難から身を守ることができる。
- ウ 自分だけではなく、他人の心にも欲があるということをわきまえ、
 わがままな行動は慎むべきである。
- エ 自分勝手な欲は我慢し、他人の欲は認めてやれば、自然と
 自分に利益が集まって得をすることになる。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。 〈中央大杉並高改〉

① ある問ひて曰く、「元和の初年のころのことかや、甲州 武田家の武士浪人となりて、町に借宅し居て、大家へ仕へんことを求むる者ありしが、年は経れども望を遂げず。貧窮に迫りて餓死しけり。死後に鎧櫃を開きて見るに、金子百両封じて軍用金と書きつけあり。武具馬具も貯へてありしとぞ。」この浪人を評して或は曰く、餓死するに至れども武具馬具を売らず、軍用金をさへ使はずしておきしは、真の武士なりと賞讃する人もあり。或はその浪人は大愚人なり、貧窮ならば軍用金にて米を買ひて食し、餓死せずして待たば善き主君を得ることもあるべきを、金子を持ちながら餓死したるは愚人にあらずして何ぞやと嘲る人もあり。この両説、いづれをとし、いづれを非とせん、いかが。答へて曰く、予は両説の是非を論ずるに及ばず、かの浪人武田勝頼戦死の時討ち死にせず存命したるのみならず、二君に仕へんことを求めしは、不忠不義なる者なり。不忠不義なる上はほかのことは評するに及ばざるなり。

〔「安斎随筆」より〕

〔注〕 元和Ⅱ元号（二六一五年―一六二四年）。

甲州Ⅱ甲斐の国の別称。現在の山梨県。

武田家Ⅱ姓氏の一つ。この浪人は武田勝頼に仕えていた。勝頼は武田信玄の子。長篠の戦いで大敗。一五八二年天目山で自刃し、武田家は滅んだ。

大家Ⅱ身分が高い家柄。

鎧櫃Ⅱ甲冑を入れておく箱。

深める

「安斎随筆」は、江戸時代の人物である伊勢貞丈が書いた随筆。公家や武家の有職故実（法令や習慣などのこと）などについて記されている。

(1) 線 a、c を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

a () b () c ()

(2) 線「求めし」の主語(主部)を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 質問した人 イ 餓死した浪人
ウ 武田勝頼 エ 筆者

(3) 線①「ある問ひて曰く」とありますが、「ある(人)」が質問した内容はどこまでですか。ⅠⅣから一つ選び、記号で答えなさい。

()

(4) 線②「両説」とありますが、それぞれのように浪人を評価していますか。文章中から動詞を抜き出しなさい。

() () () ()

(5) () に当てはまる漢字を、文章中から一字で抜き出しなさい。

()

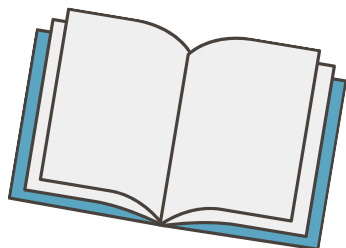
(6) 線③「不忠不義」とありますが、餓死した浪人はなぜそのように評価されてしまったのですか。その理由として適切なものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 百両もの金子を死蔵していたから。
イ 武具や馬具を使用せずに死んだから。
ウ 武士たるものが餓死するのを待っていたから。
エ 主君と生死をともしなかつたから。
オ 主君亡きあと、他家に仕えようとしたから。

紙面サンプルはここまでです。
弊社教材サンプルをご覧ください
ありがとうございます。

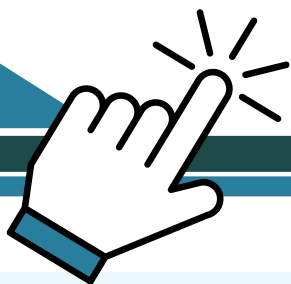
塾・学校の先生限定サイト

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ版をご覧ください。



登録無料で、他にも便利な機能がたくさん！
ぜひお役立て下さい。

Bunri Teachers' Site
会員登録はこちら



※ご登録には弊社発行の招待コードが必要です。

教材サポート

単元テスト、指導用資料、
学習サポートアイテムなど
指導をサポートするコンテンツ



最新の教育情報

社会時事問題、高校入試分析、
教科書採択情報など最新の
教育に関する情報をお届け



各種教材やテストの お問い合わせ・お申込み

生徒さま一人一人に合った教材・
テスト・デジタルコンテンツを
ご提案



※Bunri Teachers' Siteは、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

ユーザー登録していただくことで、会員限定の詳細情報をご覧ください。
本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。予めご了承ください。

お問い合わせフォーム

招待コード発行や教材の内容・ご購入方法等
お気軽にお問い合わせ下さい。

資料ご請求フォーム

弊社教材カタログ、教材やセミナーの
最新情報をお手元にお届けします！